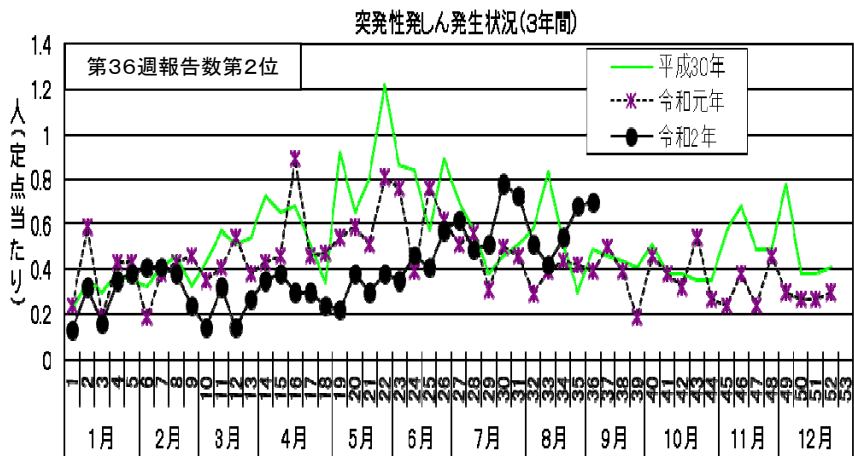
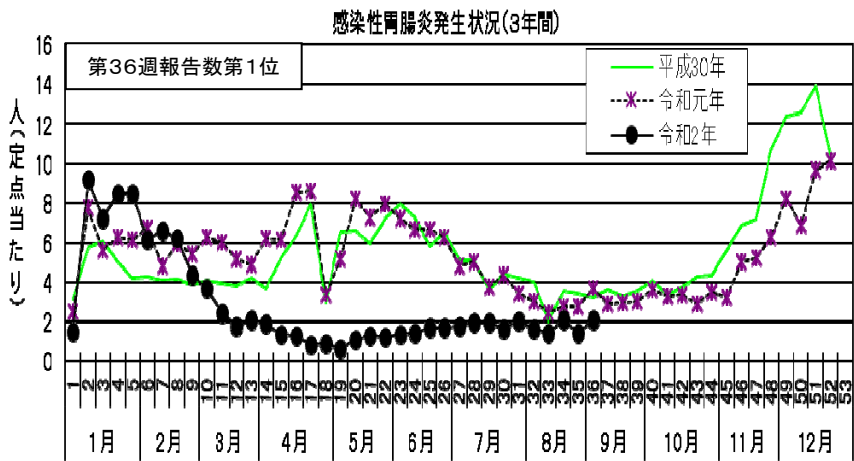


# 今、何の病気が流行しているか！

## 【感染症発生動向調査事業から】

令和2年8月31日（月）～令和2年9月6日（日）〔令和2年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.08人と前週（1.43人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。  
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.70人と前週（0.68人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.65人と前週（0.81人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



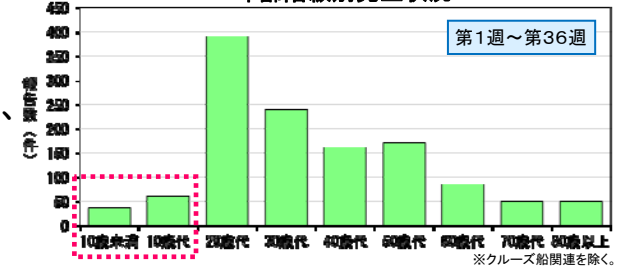
## 新型コロナウイルス感染症の市内発生状況－小児の感染源－

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和2年第36週（8月31日～9月6日）までに、クルーズ船関連を除き1249件となりました。

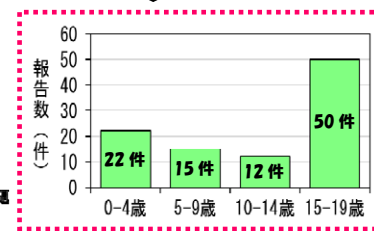
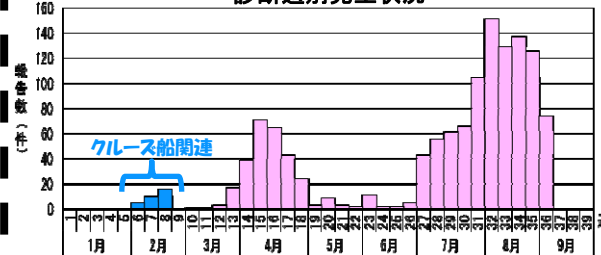
年齢階級別では、20歳未満の報告は99件（7.9%）とわずかであり、このうち15歳未満は49件（3.9%）でした。市内の保育園、幼稚園、小・中学校に通う園児や児童は42件でしたが、そのほとんどが周囲の家族や施設職員など大人からの感染であったことが、調査の結果からわかっています。発症された方が速やかに自宅に待機し、適切に受診をされたことで、幸い施設内での大きな感染拡大にはつながりませんでした。

発熱や咳などの症状がみられる場合は、可能な限り早い時期から他の人との接触を避けるようにしましょう。

令和2年川崎市における新型コロナウイルス感染症の年齢階級別発生状況



令和2年川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況



15-19歳では、50件のうち23件が19歳であり、成人と同様に職場での感染がみられました。

